

随 想

母校の全国優勝

宮田 伸樹

第76回全国高等学校ラグビーフットボール大会で、私の母校、名古屋市立西陵商業高校が優勝した。今年1月7日であった。私が卒業した時には西陵高等学校であって、普通科、商業科、家庭科があったが、その後に商業科のみとなり、名称も前記に変更された。しかし、母校である。

1月7日は火曜であった。午後のキックオフ（試合開始）を放射線治療室にあるTVで観た。試合開始そうそうに、ノーホイッスル（試合中断なし）で、大阪代表啓光学園にトライ（5点の得点）され、私は顔色が蒼くなった。

西陵の優勝戦出場は初めてである。愛知県代表としては11年連続29回、全国大会に出場しているが、ベストフォー以上は学校始まって以来の出来事なのである。今大会は、西尾名古屋市長も花園に応援に来られた。

ベストエイトは過去に3回あった。3回目のベストエイトの昨年の大会では、初のベストフォー出場を期待したが、日川高校に14-15の1点差で敗れた。これ以来、キャプテンが言った「花園に置き忘れてきた1点を取り戻しに行こう」が合い言葉になったのであった。高校野球児のあこがれが甲子園（球場）であるように、ラグビー児の目標は花園（ラグビー場）なのだ。

今大会は、1回戦流通大柏に70-10、

2回戦江の川に、なんと江の川に35-8、

3回戦久我山に、あの久我山に18-8、

準決勝では大工大に66-29、と勝った。

実際の試合の時間に観戦できたわけではないが、ビデオ、TVニュースでは観た。そして、決勝戦進出に大喜びしながらも、大工大戦では点差がつきすぎた、決勝戦だし、大勝の後はえてして大敗が怖い、と心配していた。心配はしたが、口に出すと本当になるといけないので黙っていた。

優勝戦前半は、その後トライはなく、ペナルティーゴール（3点）を西陵が3

本、啓光が1本決めて、西陵9ー8啓光で後半戦に入った。啓光フィフティーンは重い。一方、毎年、西陵は「軽量商業」とあだ名されるほど小さい。なにしろ、全校844名中女子がほとんどで、男子は109名しかいないのである。重いばかりをあつめる訳にはいかず、109名の中からの部員である。重いのにつぶされればつぶされる。

後半戦30分で、じりじりと追い上げられ、西陵19ー25啓光となった。6点差。時計はもう30分を示している。いわゆるインジュリータイムだ。西陵が啓光ゴール前に攻め込んでいる。あとワンプレーで、ノーサイド（試合終了）の笛がなるのは、選手も観客も全部が分かっている。啓光ゴールライン前のプレーで、押しても押しても、はじきかえされる。つぶされてもつぶされても前に出る。出ても出ても、ゴールラインまでには届かない。粘りに粘った5分間。押した押した5分間。放射線治療の部屋だから、私だけが観ているのではないから、大声は出せないが、心の中では「押せ、押せっ」とだけ叫んでいた。勝つ、負けるは念頭にはなかった。ただただ、「押せ、押せっ」と念じていた。スクラムから出たボールを左に回し、背番号21が飛び込んだ時には、恥ずかしいが涙がでた。トライは5点で、実際は西陵24ー25啓光で、まだ負けている。

トライにはゴールキックの権利がついており、キックには2点が与えられる。TV画面はゴールポストが大写しになっていて、蹴られたボールはポストにあたってから入ったそうだが、画面には出なかった。アナウンサーの大声で入ったのが分かった。入った直後にノーホイッスルの笛がなった。瞬間に、涙が出て出て、止まらなくなった。まことに素晴らしい試合であった。西陵が負けていても、この内容なら誰しもきっと満足しただろう。

啓光フィフティーンがグラウンドに倒れ込んでいる。ノーサイド直前の逆転でさぞかし悔しかったであろう。

2月には、優勝祝賀会があった。大変な盛会で終了後も、皆が残っていて帰らない。山田監督に挨拶してから帰ろうと思ったが、ついに挨拶もできなかった。後日、山田監督にお会いした時に、全国から西陵高校へ寄せられたお祝いの手紙、メールなどが、あまりに素晴らしいので、出版する予定と言われた。西陵ー啓光戦をTVで観ていた登校拒否児が、「僕、明日から学校へ行こうかな」

と親に言った話、西陵の毎日の熱心な練習をみていた人が自殺を思いとどまった話、見ず知らずの人から夢を与えてくれて有り難うというメール。

しばらくは山田監督に会う度に、声がつまって、涙がにじんで、上手く言葉にならないので、なるべくぶっきらぼうにしゃべった。

私は西陵商業の校医もしている。西陵に行く度に感心していた。知らない生徒だが、向うからこんにちとは挨拶するのが多いのだ。山田監督に言ったら「自分が生活指導部長をしとります」との返事であった。

4月になって、前記の本（茜色の手紙）と西陵のTシャツ、優勝記録などが届けられた。黒色のTシャツには黄色で、左胸には SEIRYOU RUGBY と、左袖には宮田とはいつている。とても大切にされていて、まだ一回しか着ていない。

(愛知医科大学教授・放射線医学教室)